

# 生産性を向上させる新機種の紹介

オリイメック(株) 後藤裕和\*、石鳥正高\*\*

生産性を向上させる当社の新しい機種を紹介する。最初は多層加工機「DAP 060」を、次にアルミ・ハイテン対応レベラフィーダ「LCC 06 HLA」を紹介する。

## 多層加工機「DAP 060」

### 1. 少品種少量生産

通常のプレスラインは大量生産には向いているが、少量生産となると段取り時間の比率が大きくなり、せっかくのラインの能力が活かしきれず無駄が多くなる。また、ほとんどのプレス部品メーカーではプレス加工後、溶接や組立てを行い製品として出荷しているが、これらの工程はプレス加工と比べると非常に遅い。そこで、「少量少品種に特化」し、後工程の速度に合わせた装置仕様で、

\* (ごとう ひろかず) : 開発課 課長

\*\* (いしとり まさたか) :

〒259-1198 神奈川県伊勢原市鈴川 6

TEL : 0463-93-0981 FAX : 0463-93-2491

後工程も含めたラインシステムに組み込めるようなコンパクトな加工機として多層加工機は開発された。

多層加工機導入のメリットとしては次のような内容があげられる。

#### (1) 生産面積のコンパクト化

プレスタンデムラインは、複数のプレス機械を並べ、その間にワーク搬送装置、また最初と最後には、材料供給機とワーク取出し装置があるのが一般的であり、ライン全長は長い。本加工機は、プレス機械4台分の工程を1台で行うことができ、材料供給装置、ワーク搬送装置、取出し装置も一体となっているが、プレス機械4台のタンデムラインと比べ、全長は約1/4となっている(図1)。

#### (2) 中間在庫の削減

コンパクト化したことにより後工程を含めたラインシステムを構成することが可能である。そのため、中間在庫がなくなり、在庫保管場所や管理の手間をなくすることができる。

#### (3) リードタイムの短縮

中間在庫がなくなるため、仕掛品の移送時間が不要となり、リードタイムの短縮が可能と考えられる。

#### (4) 設備導入コストの削減

少量少品種に特化し、簡易な構造、後工程に合わせた加工速度としたことにより、高速・高機能のプレス4台・プレス間搬送ロボット・材料供給機・取出し装置のタンデムラインと比べ導入コストは少ない。

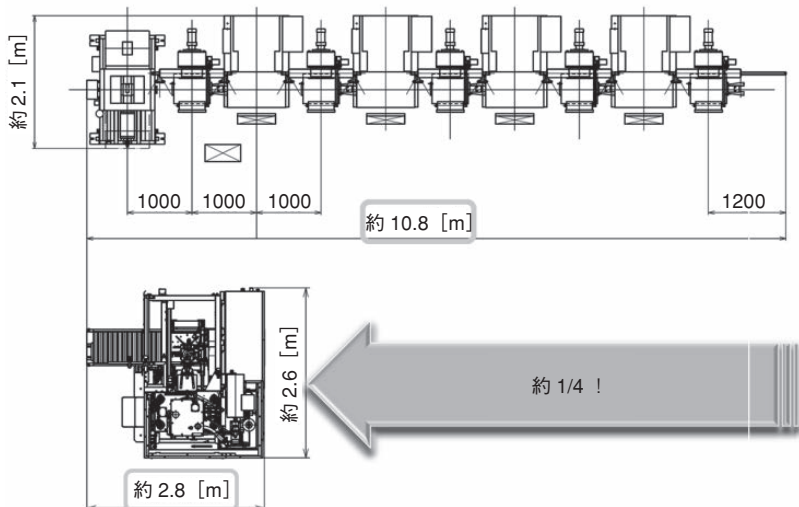


図1 ライン全長